

◇ 木野雅之 (ヴァイオリン) Masayuki Kino, Violin

桐朋学園を経て、1982年ロンドンのギルドホール音楽院に学び、名匠イブラ・ニーマン教授に師事する。音楽院卒業後、ナタン・ミルシュタイン、ルッジェーロ・リッチ、イヴリー・ギトリス等3人の巨匠に師事し研鑽を積む。

1983年、イタリアにてロドルフォ・リビツァー国際ヴァイオリン・コンクール優勝。84年、ロンドンにてカール・フレッシュ国際ヴァイオリン・コンクール最高位を獲得し、W.H.スミス賞と聴衆賞を受賞。85年、パリにてメニューイン国際コンクールでサロン音楽特別賞を受賞。87年には「ロイヤルオーケストラ協会シルバメダル」を授与され、ロンドン記念演奏会を行った。88年、ベルリンにてルッジェーロ・リッチ国際マスター・コンクール優勝。90年にはアメリカのパーム・ビーチ招待国際ヴァイオリン・コンクールに優勝。

ソリストとしてロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン交響楽団、ポーランド国立放送交響楽団、モスクワ放送交響楽団、ロンドン・モーツァルト管弦楽団等と共演。また、サンレモ、オールドバラなど国際音楽祭への参加も多く、海外での活躍も盛んに行われている。

名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターを経て、93年4月より日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターに、02年7月よりソロ・コンサートマスターに就任。

多数のCD、DVDがオクタヴィア、サウンド&ミュージック クリエーション他より発売されており、いずれも高い評価を得ている。

世界各地でのマスタークラスを始め、東京音楽大学教授、桐朋学園大学、武蔵野音楽大学講師として後進の指導にあたっている。JASTA(一般社団法人日本弦楽指導者協会)理事。

使用楽器は恩師ルッジェーロ・リッチから譲り受けた1776年製ロレンツォ・ストリオーニ。

《木野雅之オフィシャルサイト》

<http://eknowhowinc.juno.weblife.me/masakino2/index.html>

◇ 藤本史子 (ピアノ) Fumiko Fujimoto, Piano

九州女学院高校(現ルーテル学院)を卒業後、国立音楽大学ピアノ科卒業。ピアノを吉川由三子、小池和子、上田晴子、アドリアン・コックスの各氏に師事。

これまでに、幾多の音楽コンクールで入賞し、2008年、国際ピアノ伴奏コンクール優勝。2009年、日本ピアノ歌曲伴奏コンクール優勝。

NHK交響楽団、九州交響楽団をはじめとするプロオーケストラメンバーや、国内外の著名な演奏家、声楽家と全国各地で共演を重ねている。

ヴァイオリニスト木野雅之氏や、コントラバス奏者深澤功氏とのCD、DVDもリリース中。

又、ラズモフスキー四重奏団や東京ベーターヴェンカレット、KMA等との共演やスコットランドDG地球救援音楽祭、球磨川音楽祭、みおつくし音楽祭、八女おりなす音楽祭等にも出演。

現在、東京と九州を拠点に、様々なジャンルのコンサート企画、出演しいずれも高い評価を得ている。

《藤本史子オフィシャルサイト》

<http://www.fujimotofumiko.com>

◆ プログラム・ノート

■小倉 朗: ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ



1916年北九州市に生まれた小倉朗(1916-1990)は、6歳の頃、長姉からピアノの手ほどきを受け、音楽好きの叔父の影響もあって、音楽の道を志すようになります。最初はフランス近代音楽を学び、その後ドイツ音楽に傾倒していきますが、それも行き詰まり感じて、バルトークに影響を受けつつ、日本民謡やわらべうたを題材とした作品を多く手がけるようになります。「ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ」は、1960年にヴァイオリニスト小林武史のために書かれた曲で、全曲の素材を日本民謡または日本音楽の旋律から選んでいます。

第1楽章(アレグロ)は、バルトークを思わせる激しいリズムから始まり、民謡風の穏やかな旋律を経て再び冒頭の生き生きとしたリズムが現れて終わります。第2楽章(レント)ではヴァイオリンが「南部半追い歌」による民謡風の旋律をゆったりと歌い上げます。第3楽章(アレグレット)ではヴァイオリンとピアノの絡み合いが楽しい、わらべうたの生き生きとした旋律が奏でられます。

■サン=サーンス: ヴァイオリンソナタ第1番二短調 Op.75



フランス音楽を代表するヴァイオリン・ソナタの名曲のひとつに数えられるサン=サーンス(1835-1921)のヴァイオリン・ソナタは1985年に書かれ、翌年に完成した「交響曲第3番オルガン付」と楽曲の構成や循環形式を用いるなど多くの点が共通しています。作家マルセル・ブルーストはこの曲の愛好者の一人で、小説「失われた時を求めて」に登場するヴァントウイユのソナタはこの曲に着想していると言われています。全曲は大きく2つの部分からなり、それぞれがさらに2つの部分に分かれますが、切れることなく通して演奏されます。

[1]アレグロ・アジタートは暗い情熱を湛えた第1主題と流麗な第2主題が対照的で、サン=サーンスらしい技巧が満載の楽章。[2]アダージョはヴァイオリンの旋律が美しい緩徐楽章。[3]アレグレット・モデラートは短調ながら軽妙なスケルツォ楽章。[4]アレグロ・モルトはヴァイオリンが華麗に疾走する輝かしい終楽章。

■サラサーテ: ポレロ Op.30 / ナイチンゲールの歌 Op.29



スペインに生まれ、幼少時から楽才を発揮したパブロ・デ・サラサーテ(1844-1908)は、8歳でデビュー、10歳でマドリードの宮廷で演奏し、女王からストラディヴァリの名器を与えられました。また自身も、「ツィゴイネルワイゼン」を始めとするヴァイオリンの名曲を数多く書いています。ポレロとはギターとタンバリンを伴奏にカスターネットを鳴らしながらステップを踏む3拍子のダンスで、1780年にスペインの舞踊家セレスによって創作されました。サラサーテの「ポレロ」は華やかな南国ムード溢れるリズムカルな曲で、ピアノにカスターネットを思わせるリズムの音型が見られます。「ナイチンゲールの歌」はメランコリックな旋律と鳥のさえずりを思わせる音型が印象的な美しい曲。激しく情熱的な曲が多いサラサーテの作品の中では異なった持ち味を感じさせます。2曲とも1885年に書かれた作品。

■バーンスタイン: ウエスト・サイド・ストーリー



20世紀の音楽界を代表する巨匠レナード・バーンスタイン(1918-1990)が作曲したミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」は1957年にブロードウェイで初演された後、1961年には映画化され世界的な大ヒットとなりました。シェイクスピアの戯曲「ロミオとジュリエット」をベースに、舞台を現代のニューヨークに移し、ポーランド系アメリカ人とプエルトリコ系アメリカ人との2つの少年非行グループの抗争の犠牲となる若い男女の2日間の恋と死を描いたこのミュージカルはその後も世界中で再演を重ねています。今回、演奏されるのはジョシュア・パークマンとジョエル K. ボイドの2人の合作編曲によるもので、「ジェット・ソング」「何が起ころう」「マンボ」「マリア」「トゥナイト」「アメリカ」「クール」「一つの心」「アイ・フィール・プリティ」「サムホエア」のメドレーによって構成されています。